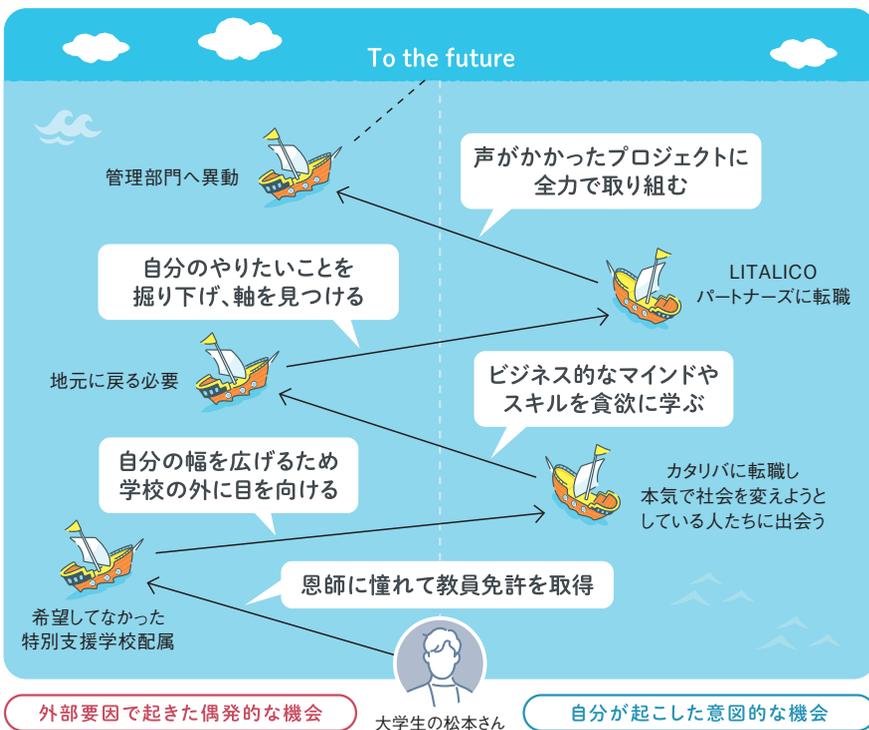


目の中のことに全力で取り組みながら  
やりたい仕事の本質を軸に選択



＼ 松本さんのキャリアのあゆみ /



CASE 04

株式会社LITALICO/パートナーズ  
事業支援グループ マネージャー  
松本裕司さん

まつもと・ゆうじ●1986年大阪府生まれ。2011年に中学校と高校の教員免許を取得。中学校の体育教師を経て、12年特別支援学校に配属。13年に認定NPO法人カタリバに転職、東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県女川町で運営されていた「コロボ・スクール女川向学館」にて小・中学生や高校生の学習支援や心のケアに取り組む。結婚をきっかけとして大阪に戻り、15年に株式会社LITALICOパートナーズに転職、障害者の就労移行支援事業に携わっている。

取材・文／藤崎雅子  
撮影／吉永智彦

## 憧れの仕事を手放し出会った 本気で社会に挑む人たち

恩師に憧れ体育教師になった僕が、  
 今、障害者就労移行支援事業に携わっ  
 ているのか。中学時代の原体験から振り返  
 ってお話ししましょう。

僕は中学生のころサッカー部のキャプ  
 ンをしていました。部員数が約90人と多  
 く、学校が荒れていたこともあり、多様な  
 生徒がいましたが、顧問だった体育の先生  
 はどんな生徒でも平等に接して誰一人見  
 放すことはなかった。私もそんな先生の姿  
 に共感し、キャプテンとして分け隔てなく  
 部員と関わった。だから最後は大会で大  
 きな結果につながったのだと思います。  
 「諦めずにやれば結果が出る」「関わり方  
 で人は才能を発揮する」…多くのことを  
 学びました。恩師のように、自分も中高生  
 の生き方や成長に関わる存在になりたい。  
 大学生生活は遊んでばかりでしたが、最後は  
 そう腹を決め、体育教師になったのです。

1年間の中学校常勤講師を経て教員  
 採用試験に合格し、配属されたのは特別  
 支援学校でした。恩師のような教師生活  
 を思い描いていた自分にとって、想定外の  
 出来事です。それでも、多様な生徒との  
 関わりには多くの学びがあり、悩みながら  
 も日ごとに学校が面白くなっていきまし  
 た。ただ、この先もやり続けたいかとい  
 うと、少し違うような気がしたのです。

元々、「さまざまな仕事を経験したほう  
 が面白い先生になるのでは」という考えが  
 あったので、いったん教員以外の仕事を経

験するのも良いだろうと思いました。そこ  
 で、学校外から教育に携わる仕事がないか  
 海外も含めて調べるなか、たまたま見つけ

たのが、東日本大震災の被災地で認定N  
 PO法人カタリバが行う教育支援の仕事  
 です。私が教員になった年、東日本大震災  
 は発生しました。その年、被災地の中学  
 と勤務校をオンラインでつないで交流した  
 ことがあり、現地の困難な状況を目の当  
 たりにして「自分にできることはないだろ  
 うか」と思ったものです。その時の思いに  
 背中を押され、被災地に飛び込みました。

地元の大阪を離れ、宮城県女川町へ。  
 そこでカタリバは地域と連携したスクール  
 を開設し、小学生から高校生までの学習  
 支援や心のケアを行っていました。私はそ  
 の運営スタッフの一人として、子どもたち  
 との対話や、学校や企業と連携した企画  
 などに、夢中で取り組みました。

そこでの出会いが、以降の私のキャリア  
 に大きく影響しています。一緒に働いてい  
 たのは、元は東京のビジネスマンや経営コ  
 ンサルタントなど、さまざまな業界から、  
 カタリバのビジョンに共感して集まった人  
 たち。そして、本気で社会を変えようと取  
 り組んでいたのです。圧倒的な当事者意  
 識とデジタルなビジネススキルをもって、  
 国や自治体を巻き込み、海外から資金を  
 調達してくる…。そんな仲間のマインド  
 や行動に大きな刺激を受けました。必死  
 に学ぼうとする僕に、職場の皆さんは忙し  
 い時間を割いてとことん付き合ってくれ、  
 そのときに学んだマインドやスキルは、今  
 でも仕事をするうえで土台になってい

ると感じます。

## 転職を機に考え気づいた 自分がやりたいことの軸

その間に地元大阪にいた彼女と結婚。

家庭のことを考え、大阪に戻ることにし  
 ました。転職にあたって改めて考え、気づ  
 いたことがあります。自分は学校教育に  
 興味があると思っていたけれど、その根底  
 には、外部環境によって能力が発揮されな  
 い状況にいる人をなんとかしたいという思  
 いがあるということです。思い起こせば中  
 学時代も、周囲のレッテルによって力を発  
 揮する機会が奪われることに、無性に腹  
 が立ったものです。子どものころからの自  
 分の習性とキャリアの軸が、すっとつなが  
 りました。そして、その軸があれば、教師  
 や学校と離れた仕事でも、自分は満たさ  
 れるのではないかと考えたのです。

そして選んだのが、現在勤務する株式  
 会社「NPO」のパートナーズの障害福祉  
 サービスの仕事です。「障害は人ではなく、  
 社会の側にある」という考え方に基づいた  
 支援のあり方に共感し、自分の軸に合う  
 仕事だと思いました。また、カタリバの仕  
 事を通じて「思いだけで社会は変わらな  
 い」と痛感していたので、理念は変わらな  
 ながらビジネスにも強い人材が豊富な職  
 場で、思いを実現させるための力をつけた  
 と思ったのも、選択理由の一つです。

入社後、配属された事業所で障害のあ  
 る方を直接サポートする仕事から始め、  
 事業所のリーダー、そして複数事業所を  
 統括するエリアマネージャーへとステップア

ップしていきました。初めての業界なので、  
 社内研修の受講だけでなく、自分で本を  
 読んだり先輩に聞いたりしながら知識や  
 スキルを身につけていきました。

当社には部署の枠組みを越えたさまざ  
 まなプロジェクトがあります。僕も「明る  
 く元気だから」とビジョン浸透イベントの  
 司会を頼まれるなど、いくつかのプロジェ  
 クトにアサインされました。「やるならよ  
 り良くする」という性分なので、自分から  
 手を挙げたことでなくても、思いをもって  
 意見や提案を発信していました。そんな  
 姿勢を見ていただいたのか、管理部門に  
 抜擢いただき、現在は事業部全体の働き  
 やすい組織づくりに携わっています。

日々難しさを感じていますが、ビジネス  
 スクールや社外コミュニティで学び、社内の  
 現場感覚も大切にしながら取り組んでい  
 ます。従業員の皆さんから、「本来の業務  
 に集中できるようになった」「生き生き仕  
 事ができる」と言ってもらえることが  
 喜びです。

こんなふうに私のキャリアは何度か方  
 向転換し一見ばらばらです。しかし、子ど  
 も、障害のある方、従業員…と対象は変  
 化したものの、「人が能力を発揮する支  
 援」という一本の軸でつながっていました。  
 岐路に立つたびに自分を掘り下げ、少し  
 ずつその軸に気づいていき、思いに正直に  
 行動するなかで生き方を変える出会いが  
 あり、やってきた機会に全力を尽くすうち  
 に道が拓けた…。当初思い描いていたキャ  
 リアとはまったく違いますが、「悪くない  
 な」と思える人生を歩んでいます。